

No.	15-1-10	場所	高森町吉田河原	次世代への継承キーワード	構造物による減災	
名称	胡麻目川の氾濫で土砂に埋まった吉田河原北部			河川	天竜川本川	
災害現象	洪水氾濫			支流	胡麻目川	
補足事項						

高森町吉田地区では、大島川から押し出された土砂が出砂原集落を埋めた。巨岩を積み上げた長さ約 500mにわたる惣兵衛堤防は、200 年以上もこの地域を守ってきたが、竜の背のごとく盛り上がった天竜川は堤防を乗り越え、地上部のほとんどが押し流された。田沢川は鉄砲水により下流一帯が一面河原となり、11 名の犠牲者を出した。

●体験談：△△

六月の下旬に入って梅雨空の雲行きは悪く、殊に二十五日ころからは間断なく、しかも激しく降り続く雨、その雨のために地盤はゆるみ、天竜川は次第に水位を上げ、増水のための危険が刻々と迫ってきた。私は当時堤防委員だったので、松島実さんの住宅を詰所にして徹夜で警戒に当たっていた。松島さん宅には、既に畳も家財道具もなかった。難をのがれんためである。

二十八日、対岸の伴野堤防がついに決壊、濁流はみるみるうちに伴野たんぼを舐めつくしていった。そして翌二十九日、一度水勢は東岸に向かったかにみえたがそれも束の間、到頭西岸の惣兵衛堤防のもやってきた。

堤防の決壊がはじまった。午後三時三十分ころ、前に傾いた水天宮はお辞儀をするように濁流に落ちていった。続いて水防小屋が崩れ落ちて姿を消した。今思い出しても無念の一語につきる。

(「変わりゆく下市田河原～改めて惣兵衛翁の偉業を偲ぶ～」より)

記 録



胡麻目川の氾濫で埋没した吉田河原の北部。前方は出砂原方面

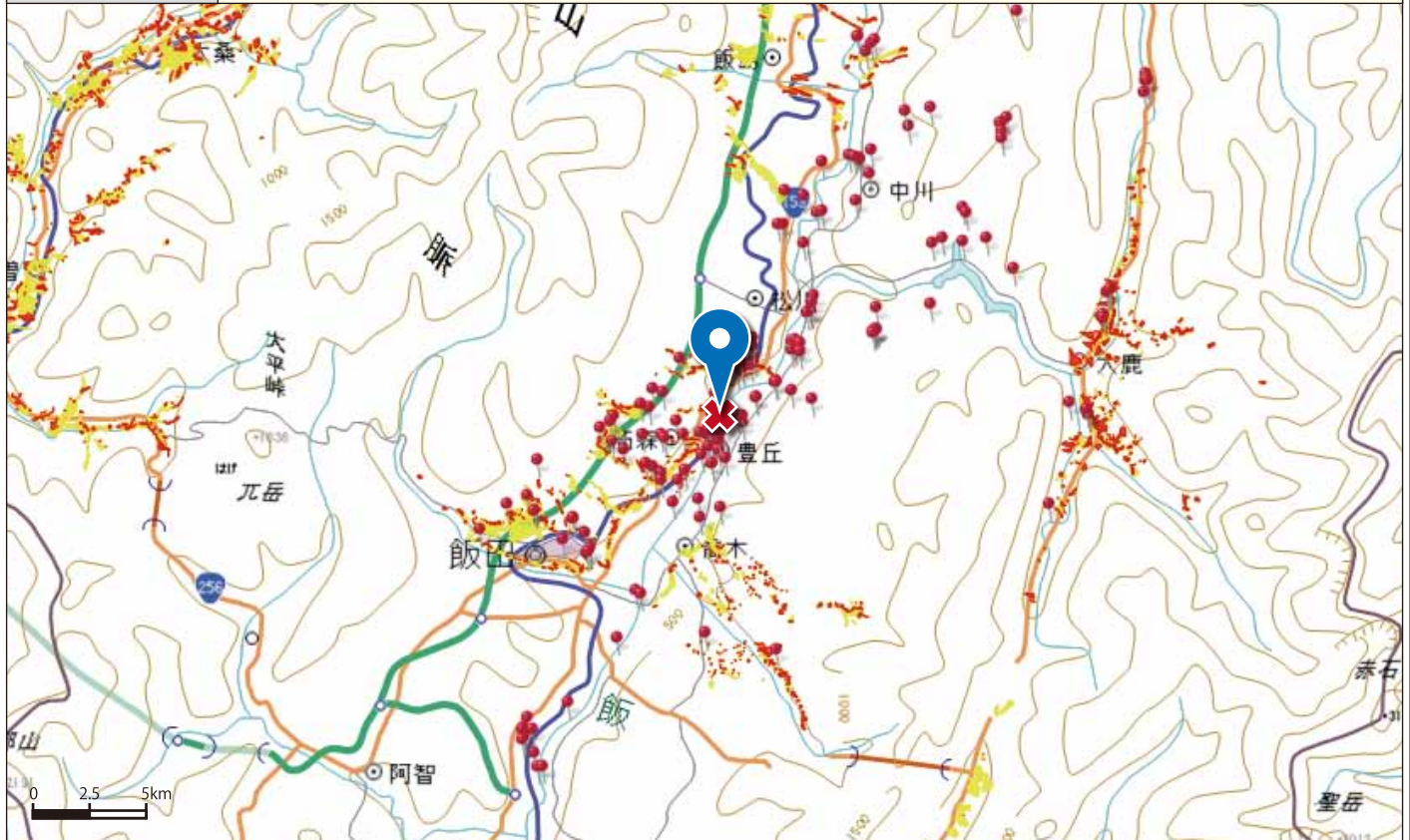
出典 「36 災害 20 周年記念 災害の記録」p.32/「変わりゆく下市田河原～改めて惣兵衛翁の偉業を偲ぶ～」 p.53

備考

No.	15-1-10	場所	高森町吉田河原	緯度	35.561173
-----	---------	----	---------	----	-----------

名称	胡麻目川の氾濫で土砂に埋まった吉田河原北部			経度	137.891486
----	-----------------------	--	--	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。